

II. 概要

1. はじめに

2007年度(平成19年度)の教育と研究と社会貢献の概要を以下に述べます。詳細については、それぞれの報告をご覧ください。

教員の異動から報告します。本年度末をもって、浅岡一雄先生が停年退職を迎えました。霊長類の生化学研究に対する多年のご尽力に対し、深く感謝いたします。また、07年9月に上野吉一さんが名古屋市の東山動植物総合公園の企画官に転出しました。動物園の再生計画を推進するとともに研究者との架け橋になります。08年2月に遠藤秀紀さんが東京大学総合博物館に転任になりました。さらに、08年4月の野生動物研究センター発足にともない、杉浦秀樹、田中正之さんが、准教授として新センターに配置換えになりました。以上5名の教員が研究所から転出しました。

一方で、07年度に5名の教員を新たに迎えることができました。着任順に、森村成樹さん、藤澤道子さん、古市剛史さん、江木直子さん(江木さんは08年度4月1日採用)です。いずれも将来の嘱望される研究者です。なお、森村と藤澤の2教員は寄附講座の特定有期雇用教員であり、野生動物研究センターの発足に伴って、08年度当初から新センターに配置換えになりました。

事務職員の異動は以下のとおりです。07年度末をもって、3年間にわたって事務長をつとめてくださった井山有三さんが薬学研究科事務長として転任されました。同じく、神田俊明・研究助成掛長と、本有会計掛主任、松山掛員が京都に戻りました。かわりに、08年度当初から、新しい事務長として小倉一夫さんが赴任しました。研究助成掛長として新野正人、会計掛主任として上川憲史、会計掛員として菅野隆道さんが赴任しました。

組織としては(08年度20年4月1日現在)、教員34名、大学院生43名(修士課程11名と博士課程32名)です。ポスドク等の研究者約20名、それに事務ならびに技術職員が、常勤ならびに非常勤をあわせて約40名います。大学院生・ポスドク等の若手研究者の約20%が海外からの留学生等というところに本研究科の特徴があります。07年度は、フランス、カナダ、アメリカ、バンラデシュ、ミャンマー、中国、スリランカと多様な国々です。なお07年度の修士課程大学院入学者は8名でした。08年度入学者は3名です。なお、大学院教育は、理学研究科生物科学専攻の霊長類学系(08年度から霊長類学・野生動物系と名称変更)に所属します。

合計して約100名を超える所員に対して、17種約800個体のサル類を飼育しています。これら人間を含めた霊長類が、官林の約3.2ヘクタールの敷地内にひしめいていました。しかし、06年度末にリサーチ・リソース・ステーション(RRS)が新たに善師野キャンパス(第2キャンパス)として発足し、より自然に近い豊かな環境でサル類を飼育しています。

本棟の改修をするために、07年7月から08年3月まで、地上5階・地下1階、約6000平米、合計216室がいったいに退去しました。官林地区には事務機能とサル類の飼育機能を最小限度だけ残して、市内3か所に分か

れざるをえませんでした。株式会社オリンパス、名古屋経済大学、そして日本モンキーセンター旧栗栖研究所跡地です。07年度はきわめて厳しい試練の年でしたが、無事に改修を果たすことができました。07年度末に、全員が新しい建物に再結集して、新しい建物で新たな決意で、研究と教育をおこなっています。

06年度に引き続いて、07年度にも寄附講座が追加されました。06年度は、ベネッセコーポレーションの寄附により「比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門」が10月1日に発足しましたが、07年度には「福祉長寿研究部門」が8月1日に発足しました。期間は5年間です。同社が熊本県の宇土(宇城市)に保有するチンパンジー・サンクチュアリ・宇土(CSU)の運営をゆだねられました。そこには、かつてC型肝炎等の医学感染実験に使われていたチンパンジーたち77個体がいます。多方面にわたる関係者の尽力によって、2006年10月に、日本のチンパンジーの侵襲的実験は廃絶されました。そして、安らかに天寿をまっとうさせるための保護施設としてCSUが誕生しました。負託に応えて、京都大学がチンパンジー研究や動物福祉研究で培ってきた知識と経験を役立てたいと願っています。なお、08年4月の野生動物研究センターの発足にともない、この寄附講座は新センターに移管しました。

野生動物研究センターの発足に伴い、ニホンザル野外観察施設は07年度末をもって廃止しました。その業務は野生動物研究センターに引き継がれました。これにともない幸島と屋久島にある観察所も新センターに移管しました。鈴木崇文、冠地富士夫の技術職員も所属が新センターになります。

宮崎県の幸島では、1948年に最初の調査がおこなわれてから60年間にわたって、貴重なサルの家系情報を記録しています。8世代にわたるサルの子孫の歴史がわかります。天然記念物のサルのいる島を、京大の直轄する新センターに置くことで、広く学内外の利用が進み、霊長類にこだわらず多様な研究が進むと期待します。また鹿児島県の屋久島は世界自然遺産の島であり、サルとシカが共存しています。さらに多様な昆虫や植物もあります。霊長類研究所の屋久島観察所は、これまでさまざまな研究に利用されてきました。今後、新センターのもと、京大に直結する施設として、さらに施設整備を進めていく予定です。

研究と教育を支えるのは国からの運営費交付金です。それ以外に、研究所に所属する個々の研究者が、主として文部科学省の科学研究費補助金等の助成により、ユニークで多様な研究を推進しています。そのほかに受託研究等もあります。そうした個別研究については別項に詳細を掲げましたのでご照覧ください。ここでは、研究所全体として取り組んでいる3つの大きな事業について07年度の活動を報告します。

第1は、文部科学省の特別教育研究経費によって支援されている「リサーチ・リソース・ステーションによる環境共存型飼育施設(RRS)」の事業です。06年度が初年度で5年計画の2年目にあたります。RRSは、里山の自然を活かしたすばらしい環境でサル類を飼育し、多様な霊長類研究を支援する事業です。05-06年度のまる2年をかけて施設の造成をおこない、06年度末から運用が開始されています。

RRSは、現キャンパスから北東2kmの場所に位置し、東海自然歩道の通る愛知県と岐阜県にまたがる丘陵地帯の山すその里山です。名鉄の保有する約70ヘクタールの山林のうち、南の山すその約10ヘクタールを利用して緑豊かな環境でのサル類の飼育をめざしました。里山の林をフェンスで囲っただけの簡素なつくりです。自然に近い環境でニホンザルが暮らしています。放し飼いにしている場内があまりに広いので、どこにサルがいるかすぐには見えません。旧来の飼育方法の常識を破る、日本から発信するユニークな飼育形態といえるでしょう。2場で1式となる運動場を用意し、一方の運動場でサルを飼育し他方は休ませて緑を回復させます。そうした屋外運動場形式の飼育と平行して、受胎日を調整し父親を選別するための計画的出産の必要上、グループケージ方式で飼育する育成舎も造りました。またユニークな試みとして、地下に1500tの排水貯留槽を設け、いっさいの排水を場外に出しません。いったん浄化した水を、再度ポンプアップして、場内に散水し自然に蒸散させるシステムです。雨水さえも2000tまで、調整池にいったん貯め置きます。RRSは、新しい理念である「環境共存型飼育施設」をめざした事業です。

なお、このRRS事業は、国の推進するナショナル・バイオリソース事業(RR2002)の一環であるニホンザル・バイオリソース・プロジェクト(略称NBR)と連携した事業です。NBRからの委託を受けてニホンザルを飼育しています。02-06年度が第1期で、拠点機関は生理学研究所(伊佐正代表)でした。07-11年度は第2期となり、泰羅登代表(日本大学)です。



リサーチリソースステーションの除幕式
左から、尾池総長、藤木審議官、松沢所長

第2は、日本学術振興会の支援する「グローバルCOEプログラム」事業です。07年度を初年度とし11年度まで継続する5年間のプログラムです。これは、02年度から06年度まで継続した21世紀COEプログラム「生物多様性研究の統合のための拠点形成」(代表者:佐藤矩行、京都大学-A2)の後継事業です。代表者は阿形清和教授で、事業名略称は「生物多様性」です。なお、霊長類研究所はそのすべてが、大学院教育においては、理学研究科生物学専攻の一員であり、その協力講座と位置づけられています。つまり生物科学専攻の4つの系、動物学・植物学・生物物理学・霊長類学の一翼を担っています。その生物科学専攻が、全体としてグローバル

21COE拠点に採択されています。本拠点は、ゲノム科学の知識と技術を共通基盤として、京都大学の伝統である野外生物学研究と最近発展のめざましい分子生物学研究を統合して、世界最高レベルの研究を推進し、ミクロ生物学とマクロ生物学の有機的な統合体系のもとで大学院教育を推進することを目的としたものです。

第3は、日本学術振興会の先端研究拠点事業で、「人間の進化の霊長類的起源(HOPE)」という国際連携研究を目的とした事業です。HOPEは、日本学術振興会の先端研究拠点事業の第1号として採択されました。03年度末(04年2月)に、日本学術振興会とドイツのマックスプランク協会のあいだで研究協力の覚書の交換がおこなわれました。それを基礎として、京都大学霊長類研究所とマックスプランク進化人類学研究所の共同研究としてHOPE事業が開始されました。2年間の拠点形成型を経て、06年度から3年間は、国際戦略型に移行して継続しています。現在では、アメリカのハーバード大学人類学部等、イギリスのケンブリッジ大学人類学部等、イタリアの認知科学工学研究所等との連携もできて、ここに日独米英伊の先進5か国による、霊長類研究の国際連携体制が整備されました。このHOPE事業の特色としては、全国共同利用の霊長類研究所が拠点となって、京都大学のみならず全国の大学その他の研究機関に属する者を支援し、共同研究、若手研究者派遣、国際集会の開催をおこなっていることです。また、野生ボノボや野生オランウータンの研究など、多様な海外調査も支援してきました。06年度には、HOPE国際シンポジウム「人間の進化の霊長類的基盤」を名古屋で開催しましたが、07年度にはHOPE国際シンポジウムを11月に東京で開催しました。

以上、こうした3つの時限の大型プロジェクトと平行して、霊長類研究所の本務である「全国共同利用」研究もさかんにおこなわれました。「自由課題」と「推進課題」と「施設利用」という、研究所が戦略的にとってきた3種類のユニークな区分にしたがって、本年度も多くの研究者を全国から募り、多様な霊長類研究を推進しました。共同利用研究会も例年どおり活発におこなわれています。

また、総長裁量経費のご支援を得て、霊長類研究所の創立40周年の式典と記念シンポジウム等を創立記念日の6月1日と翌2日にわたって、京都の時計台で開催しました。2日目の午前中には、ジュニア向けの公開実習もしました。今回の講演会を第1回京都公開講座と位置づけ、毎年、京都・犬山・東京の3か所で公開講座を開くことを決めました。

研究所全体が取り組む新事業として、「野生動物研究センター構想」を推進しました。将来計画委員会と協議委員会で検討を重ねた結果、07年度にニホンザル野外観察施設を廃止し、それを中核として改組し、新たなセンターを京大の独立部局として創る構想です。

新センターでは、①自然の生息地での野生動物保全を推進し、②野生動物保全学、動物園科学、自然学、といった新しい研究領域を開拓し、③大学と動物園やサンクチュアリとの提携をすすめます。具体的には、京都市動物園や名古屋市東山動物園との連携が進みました。また、野生動物研究センターを主たる部局として「大学を核とした地域動物園との連携」と題した特別教育研

究経費（連携融合）の事業を、09年度（平成21年度）からの概算要求として新たに掲げています。

野生動物研究センターの本拠は京都の吉田地区です。幸い、尾池総長以下、大学の多方面からのご支援を得て、重点施策定員4名（教授）のポストが措置されました。霊長類研究所からの移行を含めて、有給教員10名、無給の兼任教員10名、技術職員2名、事務職員2名からなる京大直属の独立したセンターとして発足しました。なお事務部の管理は、霊長類研究所事務長が兼務します。

霊長類研究所の大学院教育は、07年度もこれまで同様に、生物科学専攻の協力講座として粛々と執りおこなわれました。教育の成果として3つの博士学位を授与しました。課程博士3件です。また修士課程の学生については、全員が博士後期課程に無事進学しました。学部教育には、全学共通科目として「霊長類学のすすめ」（京都開催）「霊長類学の現在」（犬山開催）という2つの講義科目のほか、新入生のためのポケットゼミナール（少人数ゼミ）も2つ提供しています。

社会貢献としては、犬山で開催する公開講座と市民公開日、東京で開催する東京公開講座に加えて、07年度からは創立40周年を期して京都公開講座もおこなわれました。学部学生向けには、オープンキャンパスを開催しています。また、インターネットを活用して、さまざまなデータベースの公開と、ホームページの充実をおこなっています。この年報も、外部評価報告書も、すべてPDF化されて公開閲覧に供しています。また、和文のパンフレットを改定増刷するとともに、広報委員会が新たに3つ折の簡易版の研究所紹介リーフレットを作成しました。引き続き英語版の作成にとりかかっています。

京都大学の18部局（研究所・研究センター）の代表世話役部局を06年度に霊長類研究所が勤めました。引き続き07年度は、国立大学付置研究所センター長会議の第2部会長（全体の副会長）を霊長類研究所が担当しました。

研究と教育以外の変化についても言及します。学校教育法の改正に伴い、07年度当初から教員の制度が変わりました。従来の教授、助教授、助手という職階の呼称が改められました。本研究所では、従来のものが教授、准教授、助教という職階に移行しました。06年度の協議委員会では、助教の人事を凍結して議論を積み重ね、教員制度の将来像を検討しました。また外部評価報告書を07年3月に作成し公表しました。そこでは、この10年間の研究と教育について実証的な資料を提示し、それをもとに約20名の外部評価委員の皆様にご意見をいただきました。そうした議論の積み重ねの結果、新たに導入する助教という職階については、2007年度採用以降は、任期制を導入することに決定しました。任期7年、再任可（ただし1回だけで5年間の延長）です。再任を含めると12年間という、比較的長い期間をもった任期制です。2-3年という短い任期ではなく、落ち着いた研究環境のもとで、新しい研究に挑戦していただきたいと願っています。

こうした任期制導入に伴い、再任審査の手続きも整備しました。再任審査のための人事委員会を構成します。また教員人事の進め方についても従来の方式を改

めました。外部の運営委員も参加する人事委員会を構成し、その委員会に原案作成を付託する方式です。なお、運営委員会それ自体についても規約を改定し、外部の研究者コミュニティの声をさらに広く収集できるような体制に改めました。

2007年6月1日の創立40周年記念日にあわせた事業の一環として、全教員が分担して執筆した「霊長類進化の科学」（京都大学学術出版会）が上梓されました。霊長類学の研究の最前線を、正確にかつわかりやすくまとめた書物です。ぜひ手にとってごらんください。

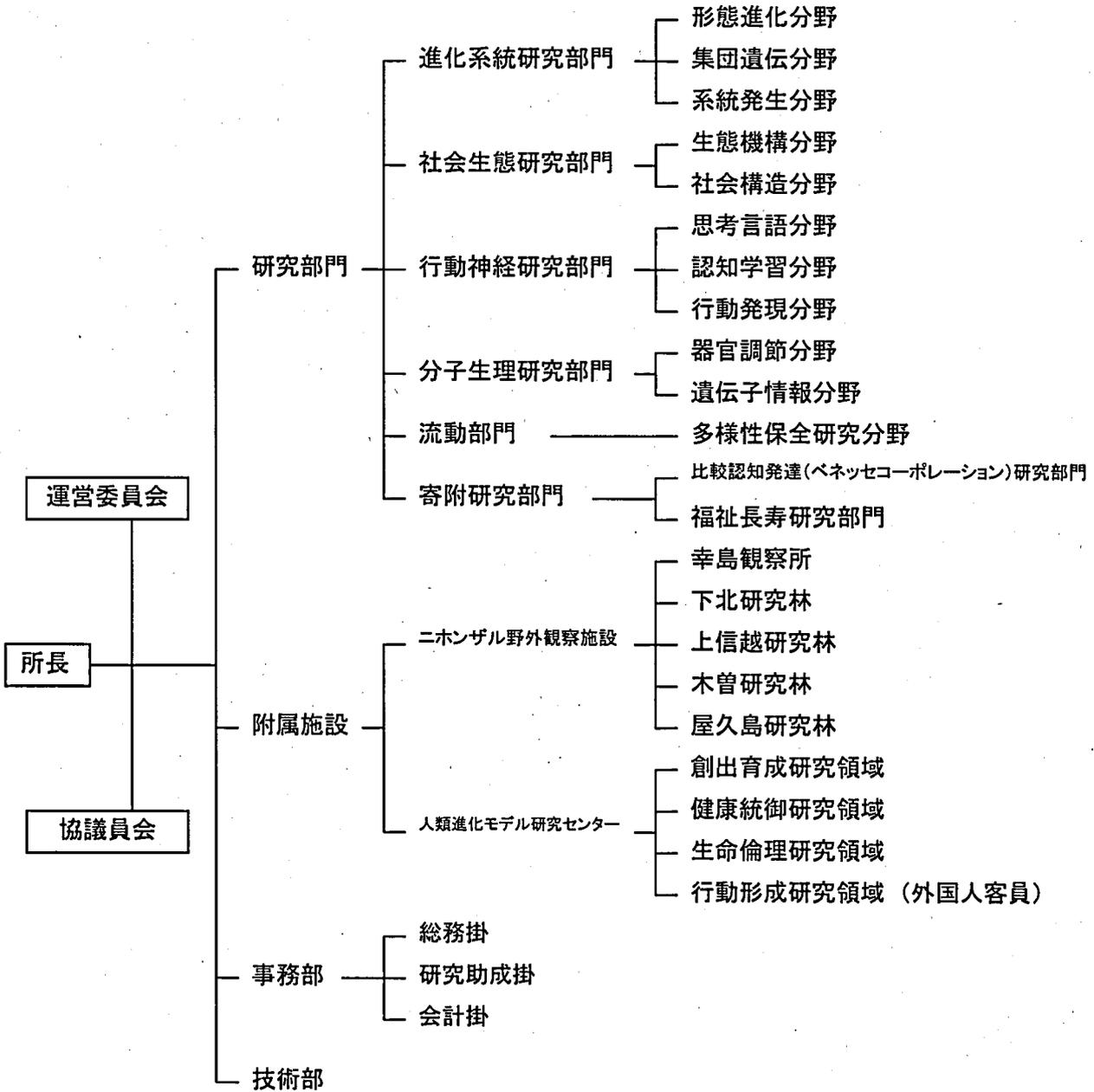
京都大学の理念は、「地球社会の調和ある共存」です。これからも、人間にとっても、サルたちにとっても、よりよい未来が開けるように研究と教育と社会貢献に努力していく所存です。ニホンザルを端緒として、チンパンジー、テナガザル、オマキザルなど、人間以外の霊長類の保全と福祉の向上にさらに努めてまいります。

以上をもって、2007年度の研究所の活動の概要報告といたします。

（文責：松沢哲郎）

2. 組織

(1) 組織の概要 (2008年3月31日現在)



| | | |
|-------|---------|---------------------|
| 所長 | 松沢 哲郎 | |
| 運営委員 | 諏訪 元 | (東京大学総合研究博物館 教授) |
| (順不同) | 長谷川 壽一 | (東京大学大学院総合文化研究科 教授) |
| | 高畑 由起夫 | (関西学院大学総合政策学部 教授) |
| | 山 極 壽 一 | (京都大学大学院理学研究科 教授) |
| | 松 林 公 蔵 | (京都大学東南アジア研究所 教授) |
| | 阿 形 清 和 | (京都大学大学院理学研究科 教授) |
| | 中 道 正 之 | (大阪大学大学院人間科学研究科 教授) |
| | 伊 佐 正 | (生理学研究所 教授) |
| | 入 來 篤 史 | (理化学研究所 グループディレクター) |
| | 颯 田 葉 子 | (総合研究大学院大学 教授) |
| | 景 山 節 | (京都大学霊長類研究所 教授) |
| | 林 基 治 | (京都大学霊長類研究所 教授) |
| 事務長 | 井 山 有 三 | |

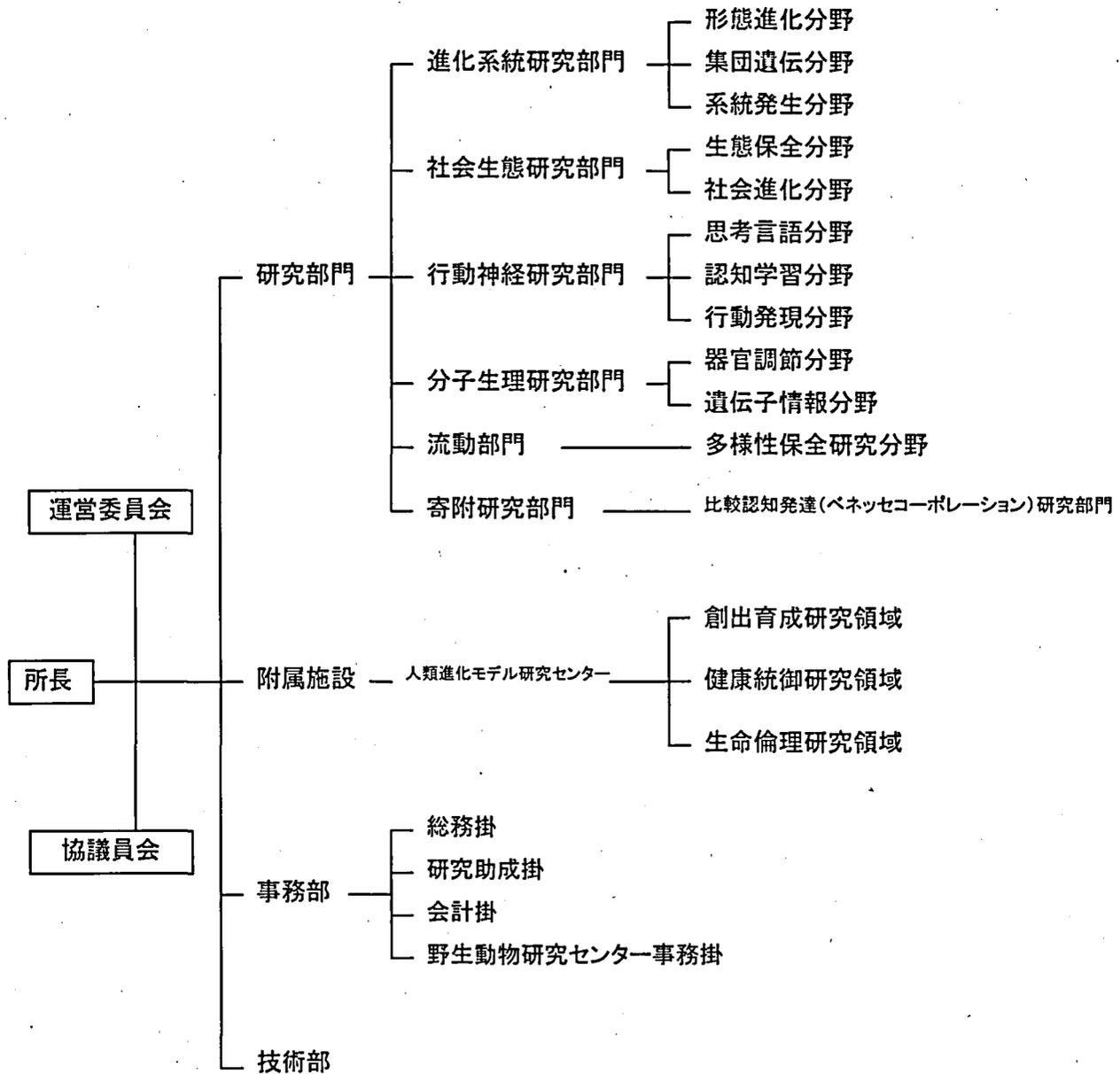
職員の内訳

| 教授 | 准教授 | 助教 | 事務職員 | 技術職員 | 小計 | 非常勤(時間) | 合計 |
|----|-----|----|------|------|----|---------|-----|
| 10 | 13 | 14 | 8 | 12 | 57 | 78 | 135 |

大学院生・研究者等の内訳

| 博士課程 | 修士課程 | 外国人共同研究者 | 特別研究員(PD) | 受託研究員 | 合計 |
|------|------|----------|-----------|-------|----|
| 30 | 16 | 3 | 4 | 1 | 54 |

(1) 組織の概要 (2008年4月1日現在)



| | | |
|-------|--------|---------------------|
| 所長 | 松沢 哲郎 | (東京大学総合研究博物館 教授) |
| 運営委員 | 諏訪 元 | (東京大学大学院総合文化研究科 教授) |
| (順不同) | 長谷川 壽一 | (関西学院大学総合政策学部 教授) |
| | 高畑 由起夫 | (京都大学大学院理学研究科 教授) |
| | 山極 壽一 | (京都大学東南アジア研究所 教授) |
| | 松林 公蔵 | (京都大学大学院理学研究科 教授) |
| | 阿形 清和 | (大阪大学大学院人間科学研究科 教授) |
| | 中道 正之 | (生理学研究所 教授) |
| | 伊佐 正 | |

入 來 篤 史 (理化学研究所 グループディレクター)
 颯 田 葉 子 (総合研究大学院大学 教授)
 景 山 節 (京都大学霊長類研究所 教授)
 林 基 治 (京都大学霊長類研究所 教授)
 事務長 小 倉 一 夫

職員の内訳

| 教授 | 准教授 | 助教 | 事務職員 | 技術職員 | 小計 | 非常勤(時間) | 合計 |
|----|-----|----|------|------|----|---------|-----|
| 10 | 12 | 10 | 8 | 10 | 50 | 72 | 122 |

大学院生・研究者等の内訳

| 博士課程 | 修士課程 | 外国人共同研究者 | 特別研究員(PD) | 受託研究員 | 合計 |
|------|------|----------|-----------|-------|----|
| 32 | 11 | 3 | 5 | 1 | 52 |

(2)所員一覽 (2007 年度)

形態進化分野 Fax:0568-61-5775

| | |
|----------------------|----------|
| 遠藤 秀紀 | 教授 |
| 濱田 穰 | 准教授 |
| 毛利 俊雄 | 助教 |
| 國松 豊 | 助教 |
| BUNJONGRAT, Ruengwit | 外国人客員研究員 |
| 早川 清治 | 技術職員 |
| 山本 亜由美 | 教務補佐員 |
| 水谷 典子 | 事務補佐員 |
| 清水 大輔 | 非常勤研究員 |
| 権田 絵里 | 大学院生 |
| 小藪 大輔 | 大学院生 |

集団遺伝分野 Fax:0568-62-9554

| | |
|-------|-------|
| 川本 芳 | 准教授 |
| 田中 洋之 | 助教 |
| 川本 咲江 | 技能補佐員 |
| 澤村 育栄 | 事務補佐員 |
| 川合 静 | 大学院生 |
| 齊藤 梓 | 大学院生 |

系統発生分野 Fax:0568-63-0536

| | |
|-----------------------|-------|
| 高井 正成 | 教授 |
| 西村 剛 | 准教授 |
| 荻野 慎太郎 | 教務補佐員 |
| 佐藤 阿佐子 | 事務補佐員 |
| THAUNG Hlike | 大学院生 |
| ZIN Maung Maung Thein | 大学院生 |
| 伊藤 毅 | 大学院生 |

生態機構分野 Fax:0568-63-0565

| | |
|-------------------------------------|----------|
| HUFFMAN, Michael Alan | 准教授 |
| 橋本 千絵 | 助教 |
| 笠原 聡 | 教務補佐員 |
| 早川 祥子 | 教務補佐員 |
| 広瀬 しのぶ | 事務補佐員 |
| MACINTOSH, ANDREW JAMES JONATHAN | 大学院生 |
| NAHALLAGE, CHARMALIE ANURADHIE DONA | 大学院生 |
| JAMAN, Mohammad Firoj | 大学院生 |
| 松岡 絵里子 | 大学院生 |
| HERNANDEZ, Alexander Danny | 外国人共同研究者 |
| GARCIA, Cecile, Marie-Claire | 外国人共同研究者 |
| LECA, Jean-Baptiste | 外国人共同研究者 |

社会構造分野 Fax:0568-63-0564

| | |
|--------|-------|
| 古市 剛史 | 教授 |
| 半谷 吾郎 | 准教授 |
| 大井 由里 | 事務補佐員 |
| 郷 もえ | 大学院生 |
| 鈴木 真理子 | 大学院生 |
| 神田 恵 | 大学院生 |
| 原澤 牧子 | 大学院生 |

| | |
|-------|------|
| 澤田 晶子 | 大学院生 |
|-------|------|

思考言語分野 Fax:0568-62-2428

| | |
|---------------------|----------|
| 松沢 哲郎 | 教授 |
| 友永 雅己 | 准教授 |
| 田中 正之 | 助教 |
| BIRO, Dphil Dora | 外国人客員研究員 |
| HUMLE, Tatyana | 外国人客員研究員 |
| 堀 鈴香 | 技術補佐員 |
| 井上 紗奈 | 教務補佐員 |
| 大平 知美 | 教務補佐員 |
| 大橋 岳 | 教務補佐員 |
| 伊藤 康世 | 教務補佐員 |
| 中島 麻衣 | 教務補佐員 |
| 酒井 道子 | 事務補佐員 |
| 奥村 由香利 | 事務補佐員 |
| 打越 万喜子 | 学振特別研究員 |
| 伊村 知子 | 学振特別研究員 |
| MARTINEZ, Laura | 大学院生 |
| 山本 真也 | 大学院生 |
| 佐藤 義明 | 大学院生 |
| 小倉 匡俊 | 大学院生 |
| 兼子 峰明 | 大学院生 |
| 狩野 文浩 | 大学院生 |
| MARTIN, Christopher | 大学院生 |

認知学習分野 Fax:0568-62-9552

| | |
|--------|---------|
| 正高 信男 | 教授 |
| 松井 智子 | 准教授 |
| 南雲 純治 | 技術職員 |
| 渡邊 直子 | 技術補佐員 |
| 加藤 朱美 | 技術補佐員 |
| 新谷 さとみ | 派遣職員 |
| 川合 南海子 | 学振特別研究員 |
| 親川 千紗子 | 大学院生 |
| 平石 博敏 | 大学院生 |
| 木場 礼子 | 大学院生 |
| 山口 智恵子 | 大学院生 |
| 福島 美和 | 大学院生 |
| 三浦 優生 | 大学院生 |
| 澤田 玲子 | 大学院生 |
| 橋本 亜井 | 大学院生 |
| 伊藤 祐康 | 大学院生 |

行動発現分野 Fax:0568-63-0563

| | |
|-------|---------|
| 三上 章允 | 教授 |
| 宮地 重弘 | 准教授 |
| 脇田 真清 | 助教 |
| 井上 雅仁 | 教務補佐員 |
| 猿渡 正則 | 教務補佐員 |
| 鈴木 冬華 | 事務補佐員 |
| 富川 貴代 | 事務補佐員 |
| 瀬瀬 大輔 | 学振特別研究員 |
| 半田 高史 | 大学院生 |
| 石川 直樹 | 大学院生 |
| 平井 大地 | 大学院生 |
| 酒井 朋子 | 大学院生 |
| 小野 敬治 | 大学院生 |
| 鴻池 菜保 | 大学院生 |
| 禰占 雅史 | 大学院生 |

器官調節分野 Fax:0568-63-0416

| | |
|--------|-------|
| 林 基治 | 教授 |
| 大石 高生 | 准教授 |
| 清水 慶子 | 助教 |
| 國枝 匠 | 技術補佐員 |
| 毛利 恵子 | 技術補佐員 |
| 金武 ひろみ | 事務補佐員 |
| 託見 健 | 大学院生 |
| 檜垣 小百合 | 大学院生 |

遺伝子情報分野 Fax:0568-62-9557

| | |
|--------------|-------------|
| 平井 啓久 | 教授 |
| 今井 啓雄 | 准教授 |
| 中村 伸 | 助教 |
| 浅岡 一雄 | 助教 |
| 中村 諭香 | 技術補佐員 |
| 出井 早苗 | 技術補佐員 |
| 平井 百合子 | 技能補佐員 |
| 光永 総子 | 教務補佐員 |
| 宮田 正代 | 事務補佐員 |
| 針貝 美樹 | 非常勤研究員 |
| 細川 和也 | 受託研究員 |
| 田中 美希子 | 大学院生 |
| JEONG, A-Ram | オフィス・アシスタント |

流動部門 (多様性保全研究分野)

| | |
|-------|----|
| 香田 啓貴 | 助教 |
|-------|----|

比較認知発達 (ベネッセコーポレーション) 研究部門

| | |
|-------|-----------|
| 佐藤 弥 | 寄附研究部門准教授 |
| 林 美里 | 寄附研究部門助教 |
| 高島 友子 | 技術補佐員 |
| 片岡 敦子 | 技術補佐員 |
| 齊藤 章江 | 技術補佐員 |

福祉長寿研究部門

| | |
|-------|----------|
| 森村 成樹 | 寄附研究部門助教 |
| 藤澤 道子 | 寄附研究部門助教 |

| | |
|-------|-------|
| 伊谷 原一 | 客員教授 |
| 野上 悦子 | 教務補佐員 |

野外施設

| | |
|-----------------------|----------|
| 渡邊 邦夫 | 教授 |
| 杉浦 秀樹 | 准教授 |
| 冠地 富士男 | 技術職員 |
| 鈴木 崇文 | 技術職員 |
| 村井 勅裕 | 教務補佐員 |
| 鈴木 克哉 | 教務補佐員 |
| 阿部 恵 | 事務補佐員 |
| 船越 美穂 | 研修員 |
| 江成 広斗 | 学振特別研究員 |
| 山田 彩 | 大学院生 |
| RIZALDI | 大学院生 |
| Zhang, Peng | 大学院生 |
| JACOBS, Armand Thomas | 外国人共同研究者 |

人類進化モデル研究センター Fax:0568-62-9559

| | |
|----------------------|-----------------|
| 景山 節 | 教授 |
| 松林 清明 | 教授 |
| 上野 吉一 | 准教授 |
| 鈴木 樹理 | 准教授 |
| 宮部 貴子 | 助教 |
| 熊崎 清則 | 技術職員 |
| 阿部 政光 | 技術職員 |
| 釜中 慶朗 | 技術職員 |
| 前田 典彦 | 技術職員 |
| 渡邊 朗野 | 技術職員 |
| 森本 真弓 | 技術職員 |
| 兼子 明久 | 技術職員 |
| 渡邊 祥平 | 技術職員 |
| 西脇 弘樹 | 技術補佐員 |
| 安江 美雪 | 技能補佐員 |
| 立木 昌子 | 技能補佐員 |
| 朱宮 幸子 | 技能補佐員 |
| 伊藤 和子 | 技能補佐員 |
| 廣川 類 | 技能補佐員 |
| 須田 直子 | 技能補佐員 |
| 津川 則子 | 技能補佐員 |
| 江口 聖子 | 技能補佐員 |
| 横江 実穂子 | 技能補佐員 |
| 熊谷 かつ江 | 技能補佐員 |
| 尾鷲 享子 | 技能補佐員 |
| 松原 幹 | 教務補佐員 |
| 山根 若葉 | 技能補佐員 (研究支援推進員) |
| 猪飼 良子 | 技術補佐員 (研究支援推進員) |
| 梅田 せつ子 | 技能補佐員 (研究支援推進員) |
| 近藤 ひろ子 | 技能補佐員 (研究支援推進員) |
| 葉栗 和枝 | 技能補佐員 (研究支援推進員) |
| 堀内 ゆかり | 技能補佐員 (研究支援推進員) |
| 小林 陽子 | 技術補佐員 (研究支援推進員) |
| 木村 俊治 | 労務補佐員 |
| 竹元 博幸 | 非常勤研究員 |
| LEO, Natalie Pui Lin | 外国人共同研究者 |

事務部 Fax:0568-63-0085

| | |
|-------|-----|
| 井山 有三 | 事務長 |
|-------|-----|

総務掛

| | |
|--------|-------|
| 細川 明宏 | 掛長 |
| 西村 元一 | 事務職員 |
| 田中 雄三 | 事務職員 |
| 後藤 知子 | 事務補佐員 |
| 菅原 喜美子 | 事務補佐員 |
| 松澤 美津子 | 事務補佐員 |
| 大藪 陽子 | 事務補佐員 |
| 井本 安志 | 労務補佐員 |
| 鈴木 博雄 | 労務補佐員 |
| 吉田 美千子 | 労務補佐員 |

研究助成掛

| | |
|---------|-------|
| 神田 俊明 | 掛長 |
| 原田 重代 | 事務補佐員 |
| 大津賀 幹子 | 派遣職員 |
| 図書室 | |
| 高井 一恵 | 事務職員 |
| 池田 早苗 | 事務補佐員 |
| 斎藤 千代子 | 事務補佐員 |
| 宿泊棟 | |
| 安東 和子 | 労務補佐員 |
| 佐々木 啓子 | 労務補佐員 |
| 多目的ホール | |
| 日比野 恵美子 | 労務補佐員 |
| 敷島 美香 | 労務補佐員 |
| 大須賀 美恵 | 派遣職員 |

会計掛

| | |
|--------|-------|
| 河田 友彦 | 掛長 |
| 本有 健一郎 | 主任 |
| 松山 耕治 | 事務職員 |
| 小川 幸枝 | 事務補佐員 |
| 小野 範子 | 事務補佐員 |

情報検索室

| | |
|-------|--|
| 福富 憲司 | |
|-------|--|

HOPE 担当

| | |
|--------|-------|
| 多久島 直美 | 事務補佐員 |
|--------|-------|

自己点検・評価委員会

| | |
|-------|-------|
| 服部 美里 | 事務補佐員 |
|-------|-------|

(3)大学院生

2007年度 生物科学専攻(霊長類学系)

| 氏名 | 学年 | 指導教員 |
|-------------------------------------------------------|----|-------------|
| 郷 もえ | D3 | 杉浦秀樹 |
| THAUNG Htike | D3 | 高井正成 |
| JEONG, A-Ram | D3 | 中村伸 |
| 権田 絵里 | D3 | 濱田穰 |
| 託見 健 | D3 | 林基治 |
| 檜垣 小百合 | D3 | 林基治 |
| 田中 美希子 | D3 | 平井啓久 |
| 親川 千紗子 | D3 | 正高信男 |
| 平石 博敏 | D3 | 正高信男 |
| 木場 礼子 | D3 | 正高信男 |
| MARTINEZ, Laura | D3 | 松沢哲郎 |
| 半田 高史 | D3 | 三上章允 |
| RIZALDI | D3 | 渡邊邦夫 |
| 山田 彩 | D3 | 渡邊邦夫 |
| NAHALLAGE,CHARMALIE ANURADHIE DONA (H19.10 でD3) | D2 | M.A.Huffman |
| 鈴木 真理子 | D2 | 杉浦秀樹 |
| 山口 智恵子 | D2 | 正高信男 |
| 山本 真也 | D2 | 松沢哲郎 |
| 石川 直樹 | D2 | 三上章允 |
| Zhang, Peng | D2 | 渡邊邦夫 |
| JAMAN, Mohammad Firoj | D1 | M.A.Huffman |
| MACINTOSH, Andrew James Jonathan (H19.10 入学) | D1 | M.A.Huffman |
| 川合 静 | D1 | 川本芳 |
| 神田 恵 | D1 | 杉浦秀樹 |
| ZIN Maung Maung Thein | D1 | 高井正成 |
| 三浦 優生 | D1 | 正高信男 |
| 福島 美和 | D1 | 正高信男 |
| 佐藤 義明 | D1 | 松沢哲郎 |
| 酒井 朋子 | D1 | 三上章允 |
| 平井 大地 | D1 | 三上章允 |
| 小薮 大輔 | M2 | 遠藤秀紀 |

| | | |
|---------------------|----|------|
| 原澤 牧子 | M2 | 杉浦秀樹 |
| 小倉 匡俊 | M2 | 田中正之 |
| 松岡 絵里子 | M2 | 橋本千絵 |
| 橋本 亜井 | M2 | 正高信男 |
| 澤田 玲子 | M2 | 正高信男 |
| 小野 敬治 | M2 | 三上章允 |
| 鴻池 菜保 | M2 | 宮地重弘 |
| 齊藤 梓 | M1 | 川本芳 |
| 伊藤 毅 | M1 | 高井正成 |
| 兼子 峰明 | M1 | 友永雅己 |
| 狩野 文浩 | M1 | 友永雅己 |
| 澤田 晶子 | M1 | 半谷吾郎 |
| 伊藤 祐康 | M1 | 正高信男 |
| MARTIN, Christopher | M1 | 松沢哲郎 |
| 瀬占 雅史 | M1 | 宮地重弘 |

(4)研究支援推進員

| 氏名 | 採用期間 |
|--------|----------------------|
| 梅田 せつ子 | 2007年4月1日～2008年3月31日 |
| 猪飼 良子 | 2007年4月1日～2008年3月31日 |
| 葉栗 和枝 | 2007年4月1日～2008年3月31日 |
| 小林 陽子 | 2007年4月1日～2008年3月31日 |
| 近藤 ひろ子 | 2007年4月1日～2008年3月31日 |
| 堀内 ゆかり | 2007年4月1日～2008年3月31日 |
| 熊谷 かつ江 | 2007年4月1日～2007年4月30日 |
| 尾鷲 享子 | 2007年5月1日～2007年7月31日 |
| 山根 若葉 | 2007年8月1日～2008年3月31日 |

3. 予算概況

予算概要

(金額の単位はすべて千円)

| | | |
|--------|---------------------|-----------|
| 運営費交付金 | 人件費 | 457,139 |
| | 物件費 | 221,868 |
| | 物件費(特別教育研究経費) | 268,092 |
| | 施設整備費補助金 | 300 |
| | 計 | 947,399 |
| 外部資金 | 受託研究費(8件) | 74,738 |
| | 受託事業費(1件) | 557 |
| | 文部科学省科学研究費補助金(35件) | 120,350 |
| | グローバルCOEプログラム(1件) | 18,000 |
| | 日本学術振興会先端研究拠点事業(1件) | 29,997 |
| | 日本学術振興会二国間交流事業(2件) | 3,600 |
| | 寄附金(5件) | 63,315 |
| | 間接経費 | 23,003 |
| | 全学共通経費 | 83,142 |
| | 計 | 416,702 |
| 合計 | | 1,364,101 |

(1) 2007年度(平成19年度)受託研究費 内訳一覧

| 研究種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|-------|-------|--------|-------------------------------|
| 受託研究費 | 景山節 | 46,178 | ニホンザルの飼育・繁殖・供給に関する研究 |
| 受託研究費 | 松沢哲郎 | 8,186 | 大型類人猿の情報整備とネットワークづくり |
| 受託研究費 | 正高信男 | 704 | 言語習得の身体的基盤の認知神経科学的研究 |
| 受託研究費 | 大石高生 | 4,000 | 脳脊髄損傷からの機能回復における軸索構造の変化 |
| 受託研究費 | 宮地重弘 | 500 | サルを用いた行動発達の神経機構の解析 |
| 受託研究費 | 松沢哲郎 | 12,370 | 大型類人猿の絶滅回避のための自然・社会環境に関する研究 |
| 受託研究費 | 友永雅己 | 800 | 獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発 |
| 受託研究費 | 平井啓久 | 2,000 | コモンマーモセットの血液キメラに関わる細胞遺伝学的研究 |
| 合計 | 8件 | 74,738 | |

※金額は、間接経費を除く

(2) 2007年度(平成19年度)受託事業費 内訳一覧

| 研究種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|-------|-------|-----|-------------------|
| 受託研究員 | 中村伸 | 557 | サルモデルでのバイオメディカル研究 |
| 合計 | 1件 | 557 | |

(3) 2007年度(平成19年度)文部科学省科学研究費補助金 内訳一覧

| 研究種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|---------|-------|--------|------------------------------------------|
| 特別推進研究 | 松沢哲郎 | 50,300 | 思考と学習の霊長類的基盤 |
| 特定領域研究 | 宮地重弘 | 2,100 | 記憶のメカニズムに関わる前頭前野,側頭連合野,海馬をつなぐ神経回路の解明 |
| 特定領域研究 | 清水慶子 | 3,400 | 霊長類の脳の形態的および機能的性分化の特性 |
| 基盤研究(B) | 川本芳 | 2,400 | 生物多様性への移入種の影響:和歌山タイワンザル交雑群に関する総合的研究 |
| 基盤研究(B) | 國松豊 | 1,900 | ユーラシアの化石ヒト上科に関する古生物学的研究 |
| 基盤研究(B) | 友永雅己 | 5,400 | 表象形成の多様性,多重性,階層性 -比較認知発達科学からのアプローチ |
| 基盤研究(B) | 大石高生 | 5,200 | 霊長類脳の発達加齢に関する比較生理学的研究:ツパイから類人猿まで |
| 基盤研究(B) | 景山節 | 6,250 | 霊長類の採食戦略に適応した胃内消化酵素ペプシンの分子機能とゲノム進化 |
| 基盤研究(B) | 高井正成 | 1,900 | アジア地域におけるオナガザル上科の進化に関する古生物学的研究 |
| 基盤研究(B) | 濱田穰 | 1,700 | インドシナ半島におけるマカク属の進化:アカゲザルとカニクイザルを主として |
| 基盤研究(B) | 三上章允 | 3,300 | テナガザル視物質遺伝子の多様性に関する研究 |
| 基盤研究(B) | 遠藤秀紀 | 4,200 | アジア・インド洋圏の家畜化と狩猟誌に関する標本資料の恒久的安定化とその学際的解析 |
| 基盤研究(B) | 渡邊邦夫 | 5,300 | アジア産旧世界ザルの道具使用等社会行動に関する研究とその保全 |
| 基盤研究(B) | 橋本千絵 | 1,300 | ヒト科における「妊娠しにくさ」の進化~野生チンパンジーのメスの過剰な性行動の研究 |
| 基盤研究(C) | 清水慶子 | 1,300 | 大豆イソフラボンの生殖内分泌系への作用:サルをモデルとした検討 |
| 基盤研究(C) | 今井啓雄 | 1,200 | 分子置換法を用いた視覚機能における光受容体機能の総合的理解 |
| 基盤研究(C) | 田中正之 | 1,400 | チンパンジーのカテゴリー認識に及ぼすラベル化の効果に関する比較心理学的研究 |
| 萌芽研究 | 松井智子 | 1,300 | 対人コミュニケーションスキル習得における母子会話の役割一定型・非定型発達の比較 |
| 萌芽研究 | 上野吉一 | 1,300 | 環境教育装置としての動物園の機能解析 |
| 萌芽研究 | 竹元博幸 | 2,100 | 人類の地上生活の獲得と森林内微気象-野生 Pan 属の空間利用からのアプローチ |
| 萌芽研究 | 三上章允 | 2,100 | 色盲遺伝子キャリアの色覚とカテゴリー識別 |
| 若手(B) | 杉浦秀樹 | 800 | ニホンザルにおける個体群動態:密度効果と群間・群内競合の検討 |
| 若手(B) | 林美里 | 700 | 物の操作を尺度としたヒトとチンパンジーの比較認知発達 |
| 若手(B) | 宮部貴子 | 2,700 | サル類における全静脈麻酔法に関する研究 |
| 若手(B) | 鈴木克哉 | 900 | 獣害問題における被害意識の多様化プロセスの解明と包括的軋轢軽減モデルの構築 |

| | | | |
|----------|----------------|---------|-----------------------------------------|
| 若手(B) | 香田啓貴 | 800 | 小型類人猿における「音楽」知覚・認知の生物学的基盤 |
| 特別研究員奨励費 | HERNANDEZ, A.D | 900 | 屋久島におけるニホンザルと寄生虫を支える食物網の構造とエネルギー論に関する研究 |
| 特別研究員奨励費 | 額額大輔 | 1,100 | 皮質-視床下核投射(ハイパー直接路)が運動の制御において果たす機能の解明 |
| 特別研究員奨励費 | 木場礼子 | 900 | ニホンザルにおける同種他個体の性の認知 |
| 特別研究員奨励費 | 伊村知子 | 1,200 | 比較認知発達の見点からみた絵画的奥行知覚:運動情報と視点の影響 |
| 特別研究員奨励費 | 江成広斗 | 1,100 | 白神山地における社会-環境問題としての猿害解決を目的とした領域横断的研究 |
| 特別研究員奨励費 | 福島美和 | 900 | 学習に困難を示す子どもの教育支援プログラムと脳機能の変化 |
| 特別研究員奨励費 | 山本真也 | 900 | チンパンジーにおける互惠的利他行動と他者理解の比較認知科学的検討 |
| 特別研究員奨励費 | 打越万喜子 | 1,000 | 思春期テナガザルの異性の歌に対する感受性-感覚性強化の認知実験- |
| 特別研究員奨励費 | 川合(久保)南海子 | 1,100 | 加齢にともなう表象の操作能力の変化と脳機能に関する実験的研究 |
| 合計 | 35 件 | 120,350 | |

※金額は、間接経費を除く

(4) 2007 年度(平成 19 年度)研究拠点形成費等補助金《グローバル COE プログラム》内訳一覧

| 研究種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|-----------------|-------|--------|--------------------|
| グローバル COE プログラム | 正高信男 | 18,000 | 生物多様性と進化研究のための拠点形成 |
| 合計 | 1 件 | 18,000 | |

(5) 2007 年度(平成 19 年度)日本学術振興会先端研究拠点事業 内訳一覧

| 研究種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|--------------------|-------|--------|--------------|
| 先端研究拠点・国際戦略型(HOPE) | 松沢哲郎 | 29,997 | 人間の進化の霊長類的起源 |
| 合計 | 1 件 | 29,997 | |

※金額は、間接経費を除く

(6) 2007 年度(平成 19 年度)日本学術振興会二国間交流事業 内訳一覧

| 研究種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|------------------|-------|-------|--------------------------------|
| 日仏交流促進事業(SAKURA) | 正高信男 | 1,000 | 霊長類の社会性が音声コミュニケーションに与える影響 |
| ロシアとの共同研究(RFBR) | 高井正成 | 2,500 | ユーラシア大陸北部における霊長類の進化に関する古生物学的研究 |
| 合計 | 2 件 | 3,600 | |

(7) 2007年度(平成19年度)寄附金 内訳一覧

| 補助金等種別 | 研究代表者 | 金額 | 研究課題 |
|------------------|-------|--------|----------------------------------------|
| (財)トヨタ財団 | 川本芳 | 2,009 | 麝猿の研究—消えゆく民間信仰の記録とサルをめぐる日本及びアジアの自然観の研究 |
| (財)ユアサ国際教育学术交流財団 | 濱田穰 | 980 | ベトナム中央高原地域における霊長類動物相の多様性と進化過程 |
| 國松豊 | 國松豊 | 326 | 霊長類に関する総合的研究 |
| (株)三和化学研究所 | 松沢哲郎 | 30,000 | 霊長類の福祉と長寿に関する飼育実践研究 |
| (株)ベネッセコーポレーション | 松沢哲郎 | 30,000 | 乳幼児期の発達,子育て,家族に関する人間とそれ以外の霊長類の比較研究 |
| 合計 | 5件 | 63,315 | |

※寄附金額は,全学共通経費(2%)を控除した金額

4. 図書

霊長類学の研究成果を網羅する方針で図書を収集しています。特に霊長類学関係論文の別刷は年間2500件あまりを受け入れ、『霊長類学別刷コレクション』として閲覧に供しています。書籍については全所員からの推薦を受け付け、選定の参考にしています。

(1) 蔵書数

2008年3月末現在、本研究所図書室に所蔵されている資料は、以下の通りです。

和書: 7,276冊 (製本雑誌も含む)

洋書: 16,473冊 (製本雑誌も含む)

霊長類学関連別刷 (霊長類学別刷コレクション): 82,700点

(2) 資料の所蔵検索

図書室で所蔵している図書・雑誌はすべて【京都大学蔵書検索 KULINE】で検索できます。

【京都大学蔵書検索 KULINE】にアクセスし、[詳細検索画面] - [所蔵館] の欄で [(82)霊長研] を選択すると、霊長類研究所の蔵書のみヒットします。

詳しくは京都大学図書館機構のホームページをご覧ください。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

霊長類学関連別刷 (霊長類学別刷コレクション) は【霊長類学文献索引データベース】で検索できます。霊長類研究所ホームページの topics【霊長類学文献索引データベース】をご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/library/books.cgi>

(3) 霊長類研究所図書室利用規程

I. 開室時間と休室

1. 開室時間

平日: 9時から17時まで。

2. 休室

土曜日、日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。

その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閲覧

1. 閲覧者の資格

- 1) 本研究所の所員。
- 2) 本研究所の共同利用研究員。
- 3) 1), 2) 以外の、京都大学に所属する者で、所属図書施設の紹介のある者。
- 4) その他一般利用者。

2. 閲覧

- 1) 閲覧は所定の場所で行わなければならない。
- 2) 次の各号に掲げる場合においては閲覧を制限することができる。

- (1) 当該資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律 (平成13年法律第140号以下「情報公開法」という。) 第5条第1号、第2号及び第4号イに掲げる情報が記録されていると認められる場合における当該情報が記録されている部

分。

- (2) 当該資料の全部又は一部を一定の期間公にすることを条件に個人又は情報公開法第5条第2号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合における当該期間が経過するまでの間。

- (3) 当該資料の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じるおそれがある場合又は当該資料が現に使用されている場合。

III. 貸出及び返却

1. IIの1の1)の該当者及び、2)のうち予め利用者カードを提出した者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持ち出すことはできない。

1) 借用資料の種類と借用方法

a. 単行本

- (i) 単行本は1か月間借用できる。
- (ii) 借用時には、ブックカード及び代本板用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本板用紙は代本板の背に挿入して、書架上の本のあった位置に置く。

b. 製本雑誌

- (i) 製本雑誌は3日間借用できる。
- (ii) 借用方法は単行本に準じる。

c. 未製本雑誌

- (i) 未製本の雑誌は15時から翌朝10時までの間に限り借用できる。
- (ii) 借用時には貸出カードに必要事項を記入する。

d. 別刷

- (i) 別刷は開室時間中に図書室内でのみ利用できる。
- (ii) 利用後は、返却台の箱に返却する。

e. 他機関からの借用資料

- (i) 他機関からの借用資料は、開室時間中の図書室内での利用に限る。
- (ii) 利用後は図書係員に返却する。

- 2) 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。

- 3) 借用中の資料を転貸してはならない。

- 4) 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、他を優先する。

- 5) 借用後の図書は返却台に返却する。

2. IIの1の3)の該当者は、所属の図書施設を通じて借用を依頼することができる。

- 1) 借用資料は単行本のみで、所属図書施設内での利用に限る。

- 2) 借用期限は2週間とするが、本研究所員からの要請があった場合には、借用期限内であっても、速やかに返却することとする。

IV. 総点検及び長期貸出

1. 定期的に図書の総点検を行う。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、図書室を休室とすることがある。
3. 図書委員会により研究室等への備え付けが認められた時は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は1年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行う。

V. その他

1. 図書室資料の目録及びこの図書室利用規程につい

ては常時図書室に備え付ける。

2. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
3. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。

4. 図書室内(書庫を含む)は禁煙とする。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。
平成16年4月1日制定

5. サル類飼育頭数・動態

2007年度(平成19年度末)飼育頭数

| 種名 | 頭数 |
|-------------|-----|
| コモンマーモセット | 26 |
| ワタボウシタマリン | 24 |
| ヨザル | 16 |
| リスザル | 4 |
| フサオマキザル | 11 |
| ケナガクモザル | 1 |
| ミドリザル | 2 |
| ニホンザル | 346 |
| ニホンザル(NBR)* | 140 |
| アカゲザル | 210 |
| タイワンザル | 7 |

| 種名 | 頭数 |
|----------|-----|
| ボンネットザル | 9 |
| カニクイザル | 44 |
| マントヒヒ | 5 |
| アジルテナガザル | 3 |
| チンパンジー | 14 |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| 合計 | 862 |

*NBR(「ニホンザル」バイオリソースプロジェクト)の預託を受け飼育しているもの

2007年度(平成19年度)サル類動態表

| 区分 種名 | 増加 | | 減少(死亡など) | | | | | | | | | | |
|------------|-----|----|----------|-----|-----|--------|--------|-----|-----|----|-----|------|----|
| | 出産 | 導入 | 実験殺 | 事故死 | 外傷死 | 呼吸器系疾患 | 消化器系疾患 | 感染症 | 泌尿器 | 衰弱 | その他 | 剖検不能 | 所外 |
| コモンマーモセット | 11 | | 2 | | | | | | | 2 | | | 2 |
| ワタボウシタマリン | | | | | | | | 1 | | | | | |
| ニホンザル | 38 | | 10 | | 1 | 4 | 3 | 2 | | | | 6 | |
| ニホンザル(NBR) | 11 | 61 | | | | 1 | 2 | | | | | 2 | |
| アカゲザル | 39 | | 25 | | 1 | | | | | | | 2 | |
| タイワンザル | | | | | | | | | | | | | |
| カニクイザル | 4 | | 5 | | | | | | | | | | |
| ブタオザル | | | | | | | | | | | | 1 | |
| マントヒヒ | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 小計 | 103 | 61 | 42 | 0 | 2 | 5 | 5 | 3 | 0 | 2 | | 12 | 2 |

6. 資料

霊長類研究所が所蔵する資料は、骨格標本、液浸標本、化石模型などからなり、外部の研究者にも基本的にすべて公開されている。標本のほとんどはデータベース化されており、資料委員会の許可にもとづいて利用希望者に提供され、研究遂行上の必要に応じて貸し出しもおこなっている。他機関所蔵の資料との交換も受け入れている。

(1) 霊長類骨格資料 (表 1)

現在、資料委員会のデータベースに登録された霊長類骨格標本は表 1 の通りである。その数は 7,000 点を超え、大部分はマカク類を中心とした旧世界ザルの標本である。その他に、新世界ザルの標本も約 1,400 点保有している。類人猿、および原猿類 (+ツパイ) の標本は、それぞれ数十点ずつである。

(2) 霊長類以外の骨格標本 (表 2)

霊長類以外にも、哺乳類を中心に約 1,400 点近い骨格標本を所蔵している。内訳は、タヌキ、キツネ、ツキノワグマ、テン、イタチ、イノシシ、シカ、カモシカなど日本産哺乳類が多い。日本産の野生哺乳類が減っている現在、これらは貴重な資料である。

骨格標本はすべて研究所新棟 4 階と本棟地下の骨格資料室において移動式標本架にならべて保管されている。標本は種ごとに分類され、種内では標本番号にしたがって配列されている。利用希望者は、資料室に設置されたコンピューター上で骨格標本データベースを検索することができる。データベース上で利用できる情報は、標本番号、種番号、属名、種名、登録日、性別、体重、座高、前胴長などである。

(3) 液浸標本

本棟地下及び栗栖地区の液浸資料室に各種霊長類のフォルマリンもしくはアルコールで固定された液浸標本が数百点保管されており、共同利用研究者などを対象に、研究・教育目的で提供されている。これらについてもデータベース化が進められている。

(4) その他

以上の他に、被毛標本数十点が保有されている。

霊長類研究所資料委員会は国内外の多くの研究者がこれらの資料を利用して研究を進めることを希望しており、利用希望者の要請にできるだけ応えたいと考えている。そのため、上記のように研究所所蔵資料のデータベース化など利用環境の整備に努めており、毎年国内外の研究者らによって骨格標本や液浸標本が研究・教育用の資料として活用されている。標本の利用許可については、非破壊的な使用目的の場合は簡便な手続きで済むようにしているが、標本の破壊が必要だったり破損の恐れのある利用の際は資料委員会への十分な事前説明が必要である。

資料委員会は新しい標本の作製、受け入れもおこなっており、毎年標本数は増加している。資料を一層充実

させるため、野外調査などの際に、霊長類その他の標本の採集にご協力いただきたい。

備考: 資料委員会では、霊長類研究所資料室で登録・保管する他、霊長類標本に関するデータのみの登録も受け付けています。あるいは、標本管理者の移籍・退職などによって管理困難となった標本の取り扱いについても相談を受けます。霊長類研究所資料委員会までご連絡ください。

(平成 20 年度連絡先: kunimats@pri.kyoto-u.ac.jp).

(文責: 國松豊)

2007年度(平成19年度)所蔵骨格資料

表1 霊長類骨格資料

| 和名 | 学名 | 標本数 |
|-------------|-------------------------------|------|
| ホミノイド | Hominoidea | 84 |
| テナガザル属 | <i>Hylobates</i> spp. | 53 |
| チンパンジー属 | <i>Pan troglodytes</i> | 25 |
| ゴリラ属 | <i>Gorilla gorilla</i> | 5 |
| オランウータン属 | <i>Pongo pygmaeus</i> | 1 |
| 旧世界ザル | Cercopithecoidea | 6100 |
| マカク属 | <i>Macaca</i> spp. | 4404 |
| ラングール属 | <i>Presbytis</i> spp. | 176 |
| コロブス属 | <i>Colobus</i> spp. | 362 |
| コバナテングザル属 | <i>Simias concolor</i> | 132 |
| グエノン属 | <i>Cercopithecus</i> spp. | 568 |
| パタス属 | <i>Erythrocebus patas</i> | 18 |
| マンガベイ属 | <i>Cercocebus</i> spp. | 16 |
| ヒヒ属 | <i>Papio</i> spp. | 406 |
| マンドリル属 | <i>Mandrillus</i> spp. | 18 |
| 新世界ザル | Ceboidea | 1423 |
| リスザル属 | <i>Saimiri sciureus</i> | 985 |
| ヨザル属 | <i>Aotus trivirgatus</i> | 57 |
| ティティ属 | <i>Callicebus</i> spp. | 49 |
| ホエザル属 | <i>Alouatta</i> spp. | 49 |
| クモザル属 | <i>Ateles</i> spp. | 8 |
| ウーリークモザル属 | <i>Brachyteles</i> spp. | 3 |
| ウーリーモンキー属 | <i>Lagothrix</i> spp. | 16 |
| オマキザル属 | <i>Cebus</i> spp. | 84 |
| サキ属 | <i>Pithecia</i> spp. | 13 |
| ウアカリ属 | <i>Cacajao calvus</i> | 1 |
| ゲルディモンキー属 | <i>Callimico goeldi</i> | 1 |
| ピグミーマーモセット属 | <i>Cebuella pygmaeus</i> | 6 |
| マーモセット属 | <i>Callithrix</i> spp. | 59 |
| タマリン属 | <i>Saguinus</i> spp. | 86 |
| ライオンタマリン属 | <i>Leontopithecus rosalia</i> | 6 |
| 原猿類およびツパイ類 | Prosimii & Tupaia | 67 |
| ツパイ属 | <i>Tupaia</i> spp. | 43 |
| オオツパイ属 | <i>Lyonogale</i> spp. | 1 |
| キツネザル属 | <i>Lemur</i> spp. | 6 |
| エリマキキツネザル属 | <i>Varecia</i> spp. | 2 |
| スローリス属 | <i>Nycticebus</i> spp. | 7 |
| ポットー属 | <i>Perodicticus</i> spp. | 1 |
| ガラゴ属 | <i>Galago</i> spp. | 6 |
| メガネザル属 | <i>Tarsius</i> spp. | 1 |
| 総計 | | 7674 |

表2 その他の骨格資料

| 和名 | 学名 | 標本数 |
|------------|-----------------------|------|
| 食肉目 | Carnivora | 912 |
| イヌ科 | Canidae | 552 |
| ネコ科 | Felidae | 23 |
| クマ科 | Ursidae | 132 |
| アライグマ科 | Procyonidae | 5 |
| イタチ科 | Mustelidae | 180 |
| ジャコウネコ科 | Viverridae | 20 |
| 奇蹄目 | Perissodactyla | 8 |
| ウマ科 | Equidae | 6 |
| バク科 | Tapiridae | 2 |
| 偶蹄目 | Artiodactyla | 349 |
| ウシ科 | Bovidae | 50 |
| シカ科 | Cervidae | 38 |
| イノシシ科 | Suidae | 257 |
| ペッカリー科 | Tayassuidae | 3 |
| 不明 | indet. | 1 |
| 齧歯目 | Rodentia | 68 |
| ネズミ科 | Muridae | 22 |
| リス科 | Sciuridae | 33 |
| テンジクネズミ科 | Caviidae | 3 |
| ヌートリア科 | Myocastoridae | 1 |
| ヤマアラシ科 | Hystriidae | 1 |
| オマキヤマアラシ科 | Erethizontidae | 1 |
| カピバラ科 | Hydrochoeridae | 1 |
| パカ科 | Agoutidae | 2 |
| 不明 | indet. | 4 |
| ウサギ目 | Lagomorpha | 10 |
| ウサギ科 | Leporidae | 9 |
| ナキウサギ科 | Ochotonidae | 1 |
| 食虫目 | Insectivora | 1 |
| モグラ科 | Talpidae | 1 |
| 有袋目 | Marsupialia | 6 |
| オポッサム科 | Didelphidae | 2 |
| ウォンバット科 | Vombatidae | 1 |
| カンガルー科 | Macropodidae | 2 |
| クスクス科 | Phalangeridae | 1 |
| 貧歯目 | Edentata | 2 |
| フタユビナマケモノ科 | Megalonychidae | 2 |
| 長鼻目 | Proboscidea | 1 |
| クジラ目 | Cetacea | 9 |
| マイルカ科 | Delphinidae | 9 |
| 鰭脚目 | Pinnipedia | 16 |
| アシカ科 | Otariidae | 14 |
| 哺乳類・計 | | 1382 |
| 爬虫類 | | 4 |
| 魚類 | | 1 |
| 総計 | | 1387 |

7. 人事異動

| 所属分野等 | 職名 | 異動 | | 内容 | 備考 |
|-------|-----------|-------|------------|--------|----------------------------|
| | | 氏名 | 年月日 | | |
| ※比較認知 | 寄付研究部門准教授 | 佐藤弥 | 2007/4/1 | 雇用更新 | 任期は2008/3/31まで |
| ※比較認知 | 寄付研究部門助教 | 林美里 | 2007/4/1 | 雇用更新 | 任期は2008/3/31まで |
| 系統発生 | 准教授 | 西村剛 | 2007/4/1 | 採用 | 京都大学大学院理学研究科特別研究員より |
| ※センター | 技術職員 | 熊崎清則 | 2007/4/1 | 昇任 | センター技術専門員に昇任 |
| ※センター | 副所長 | 景山節 | 2007/4/1 | 併任 | 任期は2008/3/31まで |
| ※野外施設 | 施設長 | 渡邊邦夫 | 2007/4/1 | 併任 | 任期は2009/3/31まで |
| 流動部門 | 助教 | 香田啓貴 | 2007/7/1 | 再任 | 任期は2008/6/30まで |
| 福祉長寿 | 准教授 | 友永雅己 | 2007/8/1 | 兼任 | 部局限りで通知 |
| 福祉長寿 | 寄付研究部門助教 | 森村成樹 | 2007/8/1 | 採用 | (株)林原生物化学研究所類人猿研究センター研究員より |
| 福祉長寿 | 寄付研究部門助教 | 藤澤道子 | 2007/8/1 | 採用 | 国立長寿医療センター病院専門修練医より |
| 福祉長寿 | 客員教授 | 伊谷原一 | 2007/8/1 | 称号付与 | 期間は2008/3/31まで |
| ※センター | 准教授 | 上野吉一 | 2007/8/31 | 辞職 | 名古屋市東山総合公園企画官へ |
| ※センター | センター長 | 平井啓久 | 2007/10/1 | 併任 | 任期は2009/9/30まで |
| ※センター | 技術職員 | 西脇弘樹 | 2007/12/31 | 任期満了退職 | 2008/1/1付センター技術補佐員採用 |
| ※センター | 技術職員 | 渡邊朗野 | 2008/1/1 | 育児休業復帰 | |
| 形態進化 | 教授 | 遠藤秀紀 | 2008/1/31 | 辞職 | 東京大学総合研究博物館教授へ |
| 社会構造 | 教授 | 古市剛史 | 2008/2/1 | 採用 | 明治学院大学国際学部教授より |
| ※野外施設 | 准教授 | 杉浦秀樹 | 2008/3/1 | 昇任 | 社会構造分野助教より |
| 器官調節 | 助教 | 清水慶子 | 2008/3/31 | 辞職 | 岡山理科大学理学部教授へ |
| ※野外施設 | 技術職員 | 冠地富士男 | 2008/3/31 | 定年退職 | 2008/4/1付野生動物研究センター再雇用 |
| 遺伝子情報 | 助教 | 浅岡一雄 | 2008/3/31 | 定年退職 | |
| ※野外施設 | 施設長 | 渡邊邦夫 | 2008/3/31 | 併任終了 | |

※ 野外施設:附属ニホンザル野外観察施設

※ センター:附属人類進化モデル研究センター

※ 比較認知:比較認知発達(ベネッセコーポレーション)研究部門

8. 海外渡航

(1) 教員・職員

| 所属 | 氏名 | 期間 | 目的国 | 目的 |
|------|-------------|----------------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 形態進化 | 濱田穰 | 2007/4/15～5/21 | タイ王国・ラオス人民民主共和国・ベトナム社会主義共和国 | タイ・ラオス・ベトナムにおけるマカク分布・生息実態・多様性に関する調査 |
| 野外施設 | 渡邊邦夫 | 2007/4/20～5/10 | インドネシア共和国 | インドネシアにおける霊長類調査 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/4/22～5/9 | マレーシア | 野外調査 |
| 生態機構 | M.A.Huffman | 2007/5/11～5/22 | イタリア共和国 | 研究連絡・イタリア霊長類学会参加・発表・資料収集 |
| 系統発生 | 高井正成 | 2007/5/12～5/18 | 中華人民共和国 | 骨標本の観察 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/6/3～6/12 | マレーシア | 野外調査・研究打ち合わせ |
| 思考言語 | 松沢哲郎 | 2007/6/19～6/25 | アメリカ合衆国 | アメリカ霊長類学会参加・講演・資料収集 |
| センター | 上野吉一 | 2007/6/26～7/4 | アメリカ合衆国 | 動物園,保護施設の視察及び資料収集 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/7/12～7/20 | マレーシア | 野外調査 |

| | | | | |
|---------|---------------------|------------------|------------------|------------------------------------------|
| 形態進化 | 濱田穰 | 2007/7/20～7/26 | ベトナム社会主義共和国・タイ王国 | 研究打ち合わせ |
| 行動発現 | 三上章允 | 2007/7/21～7/29 | インドネシア共和国 | 行動実験及び研究連絡 |
| 形態進化 | 國松豊 | 2007/7/21～9/30 | ケニア共和国 | 化石発掘調査・資料収集 |
| 多様性保全研究 | 香田啓貴 | 2007/7/29～8/8 | インドネシア共和国 | 研究調査 |
| 形態進化 | 遠藤秀紀 | 2007/7/24～8/3 | タイ王国 | インドシナ産家畜家禽と関連野生種の比較機能形態学的検討 |
| 集団遺伝 | 川本芳 | 2007/8/13～8/25 | ペルー共和国 | 南米ラクダ科動物の家畜化に関する研究打ち合わせ及び試料収集 |
| センター | 宮部貴子 | 2007/8/28～9/2 | 台湾 | Asian Conservation Medicine ワークショップ・施設見学 |
| センター | 鈴木樹理 | 2007/8/29～9/7 | 台湾 | 寿命に関するマカク属内比較のための個体データ収集 |
| 器官調節 | 清水慶子 | 2007/8/29～9/5 | 台湾 | 第3回アジア獣医病理学会出席・発表・資料収集及び研究連絡 |
| センター | Ruengwit Bunjongrat | 2007/8/30～9/10 | タイ王国 | タイ霊長類の分布と遺伝的多様性研究のデータ収集 |
| 野外施設 | 渡邊邦夫 | 2007/8/31～9/14 | インドネシア共和国 | 野外調査・研究連絡 |
| 思考言語 | 松沢哲郎 | 2007/9/1～9/13 | フランス共和国 | 研究連絡 |
| 形態進化 | 濱田穰 | 2007/9/1～9/11 | タイ王国 | タイ霊長類の分布と遺伝的多様性研究のデータ収集 |
| 認知学習 | 正高信男 | 2007/9/4～9/8 | 英国 | 研究連絡・国際シンポジウム参加・講演 |
| 集団遺伝 | 川本芳 | 2007/9/6～9/14 | ブータン王国 | マカク及び家畜の遺伝学研究に関する打ち合わせ |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/9/12～9/21 | マレーシア | 野外調査 |
| 形態進化 | 高井正成 | 2007/9/13～9/25 | ロシア連邦 | 化石標本の観察・同定・計測 |
| 生態機構 | 橋本千絵 | 2007/9/15～9/30 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態学的調査 |
| 比較認知 | 林美里 | 2007/9/18～9/25 | マレーシア | 野生及びリハビリオランウータンの生態・行動調査 |
| 生態機構 | M.A.Huffman | 2007/9/22～10/8 | インド | 野外行動観察・調査・研究連絡・施設見学 |
| センター | 宮部貴子 | 2007/9/23～10/3 | アメリカ合衆国 | アメリカ獣医麻酔学会出席・資料収集・研究連絡 |
| 形態進化 | 遠藤秀紀 | 2007/9/23～9/26 | ベトナム社会主義共和国 | ベトナムにおける偶蹄類の機能形態学的解析 |
| 系統発生 | 西村剛 | 2007/9/26～10/3 | フランス共和国 | 化石資料の分析・試料収集・研究打ち合わせ |
| 多様性保全研究 | 香田啓貴 | 2007/10/8～10/22 | フランス共和国 | 共同研究及び共同実験 |
| 形態進化 | 濱田穰 | 2007/10/11～11/11 | タイ王国・インド・ミャンマー連邦 | 霊長類の分布と生息実態調査・研究打ち合わせ |
| 思考言語 | Tatyana Humle | 2007/10/11～10/28 | ドイツ連邦共和国・フランス共和国 | フランス霊長類学会・国際ワークショップ参加・発表・資料収集 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/10/27～11/7 | マレーシア | 野外調査・研究打ち合わせ |
| 系統発生 | 高井正成 | 2007/10/31～11/11 | 中華人民共和国 | 更新世の洞窟堆積物の化石調査 |
| 認知学習 | 正高信男 | 2007/11/1～11/5 | アメリカ合衆国 | 第1回心・脳・教育国際学会参加・講演・資料収集 |

| | | | | |
|---------|-------------|--------------------------|-------------------|----------------------------------|
| 行動発現 | 三上章允 | 2007/11/2~11/9 | アメリカ合衆国 | 第 37 回北米神経科学大会参加・資料収集・研究打ち合わせ |
| 行動発現 | 宮地重弘 | 2007/11/2~11/9 | アメリカ合衆国 | 第 37 回北米神経科学大会参加・発表・資料収集・研究打ち合わせ |
| 器官調節 | 大石高生 | 2007/11/3~11/9 | アメリカ合衆国 | 第 37 回北米神経科学大会参加・発表・資料収集 |
| 器官調節 | 林基治 | 2007/11/4~11/8 | アメリカ合衆国 | 第 37 回北米神経科学大会参加・発表・資料収集 |
| 思考言語 | 松沢哲郎 | 2007/11/4~11/10 | ポルトガル共和国 | ポルトガル・スペイン霊長類学会参加・講演・資料収集 |
| 生態機構 | M.A.Huffman | 2007/11/4~11/13 | メキシコ合衆国 | 招待講演・研究連絡 |
| 遺伝子情報 | 中村伸 | 2007/11/6~11/9 | 大韓民国 | 国際東洋医学シンポジウム講演・研究連絡 |
| 集団遺伝 | 川本芳 | 2007/11/20~12/9 | バングラデシュ人民共和国・タイ王国 | アカゲザル捕獲調査・資料収集・研究連絡 |
| 形態進化 | 濱田穰 | 2007/11/20~12/9 | バングラデシュ人民共和国・タイ王国 | アカゲザル捕獲調査・資料収集・研究連絡 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/11/28~12/8 | マレーシア | 野外調査 |
| 遺伝子情報 | 中村伸 | 2007/12/10~12/15 | シンガポール共和国 | 第 2 回アジア科学シンポジウム出席・資料収集及び研究連絡・講演 |
| 思考言語 | 松沢哲郎 | 2007/12/14 ~ 2008/1/6 | フランス共和国・ギニア共和国 | 資料収集・野生チンパンジーの生態調査 |
| 野外施設 | 渡邊邦夫 | 2007/12/17~12/27 | インドネシア共和国 | 野外調査・研究連絡 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2007/12/18 ~ 2008/1/2 | マレーシア | 野外調査・研究打ち合わせ |
| 形態進化 | 遠藤秀紀 | 2007/12/23~12/25 | ラオス人民民主共和国 | 家畜家禽原種及び狩猟誌に関する資料調査 |
| 生態機構 | 橋本千絵 | 2007/12/23 ~ 2008/1/7 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態学的調査・研究連絡 |
| 多様性保全研究 | 香田啓貴 | 2008/1/9~1/13 | バングラデシュ人民共和国 | 「バングラデシュにおけるフーロックギボンの保全」参加・資料収集 |
| 遺伝子情報 | 平井啓久 | 2008/1/9~1/13 | バングラデシュ人民共和国 | 「バングラデシュにおけるフーロックギボンの保全」参加・資料収集 |
| 系統発生 | 高井正成 | 2008/1/11~1/17 | 中華人民共和国 | 化石標本の観察・計測及び研究打ち合わせ |
| 野外施設 | 渡邊邦夫 | 2008/1/13~1/17 | 中華人民共和国 | 研究打ち合わせ |
| センター | 兼子明久 | 2008/2/3~3/1 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態観察・チンパンジー保護施設見学 |
| 系統発生 | 西村剛 | 2008/2/5~2/26 | ミャンマー連邦 | 発掘調査・哺乳類化石の解析及び観察 |
| 生態機構 | 橋本千絵 | 2008/2/5~2/25 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態学的調査・研究連絡 |
| 福祉長寿 | 藤澤道子 | 2008/2/8~3/15 | フランス共和国・ギニア共和国 | 資料収集・野生チンパンジーの生態調査 |
| 比較認知 | 林美里 | 2008/2/9~3/13 | フランス共和国・ギニア共和国 | 資料収集・野生チンパンジーの生態調査 |
| 行動発現 | 三上章允 | 2008/2/14~2/20 | インドネシア共和国 | 研究連絡・行動実験 |
| 遺伝子情報 | 平井啓久 | 2008/2/14~2/24 | インドネシア共和国 | テナガザルの系統生物地理学的研究に関わる試料収集 |

| | | | | |
|---------|------|----------------|-----------|--------------------------|
| 系統発生 | 高井正成 | 2008/2/15～2/24 | ミャンマー連邦 | 発掘調査・哺乳類化石の解析及び観察 |
| 野外施設 | 渡邊邦夫 | 2008/2/15～2/27 | インドネシア共和国 | 野外調査・温泉ザルの予察 |
| 多様性保全研究 | 香田啓貴 | 2008/2/15～2/27 | インドネシア共和国 | 野外調査・温泉ザルの予察 |
| センター | 宮部貴子 | 2008/2/16～2/22 | インドネシア共和国 | テナガザルの調査 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2008/2/16～2/24 | マレーシア | 野外調査 |
| 認知学習 | 正高信男 | 2008/2/16～2/21 | タイ王国 | 市内に生息するカニクイザルの野外調査 |
| 社会構造 | 古市剛史 | 2008/3/10～3/18 | コンゴ民主共和国 | ボノボ保護会議・コンゴ自然保護会議出席 |
| 社会構造 | 半谷吾郎 | 2008/3/20～3/30 | マレーシア | 野外調査 |
| 野外施設 | 渡邊邦夫 | 2008/3/21～3/30 | インドネシア共和国 | 研究連絡・野外調査 |
| 形態進化 | 濱田穰 | 2008/3/21～4/2 | タイ王国 | カニクイザル分布・生息実態調査及び研究打ち合わせ |
| 思考言語 | 友永雅己 | 2008/3/25～3/31 | アメリカ合衆国 | 国際赤ちゃん学会参加・発表・試料収集 |
| 形態進化 | 國松豊 | 2008/3/25～4/1 | ギリシャ共和国 | 国際ワークショップ出席 |

(2) 大学院生

| 所属 | 氏名 | 期間 | 目的国 | 目的 |
|------|--------------------|-------------------------|--------------|--------------------------------------|
| 野外施設 | RIZALDI | 2007/4/19～5/2 | アメリカ合衆国 | インドネシア産霊長類共同研究の打ち合わせ |
| 思考言語 | 狩野文浩 | 2007/6/19～6/30 | アメリカ合衆国 | アメリカ霊長類学会参加・資料収集・研究連絡 |
| 思考言語 | 兼子峰明 | 2007/6/19～6/30 | アメリカ合衆国 | アメリカ霊長類学会参加・資料収集・研究連絡・施設見学 |
| 思考言語 | 佐藤義明 | 2007/6/19～7/5 | アメリカ合衆国 | アメリカ霊長類学会参加・資料収集・研究連絡・施設見学 |
| 思考言語 | 小倉匡俊 | 2007/6/19～7/5 | アメリカ合衆国 | アメリカ霊長類学会参加・資料収集・研究連絡・施設見学 |
| 認知学習 | 三浦優生 | 2007/7/9～7/20 | スウェーデン王国 | 国際語用論学会大会出席・発表・資料収集・施設見学 |
| 思考言語 | 山本真也 | 2007/8/14～8/30 | カナダ・アメリカ合衆国 | 国際動物行動学会参加・発表・研究打ち合わせ・資料収集 |
| 生態機構 | Jaman, Mohammad F. | 2007/9/4～10/29 | バングラデシュ人民共和国 | 都会及び森に住む野生ザルの観察・研究連絡 |
| 野外施設 | RIZALDI | 2007/9/8～9/20 | 中華人民共和国 | 研究打ち合わせ・野外調査 |
| 野外施設 | 張鵬 | 2007/9/8～10/30 | 中華人民共和国 | 研究打ち合わせ・野外調査 |
| 生態機構 | C.A.D.Nahallage | 2007/9/23～10/9 | インド | 野外行動観察・調査・研究連絡・施設見学 |
| 形態進化 | 小薮大輔 | 2007/10/20 11/11 | 英国 | 標本調査・資料収集 |
| 認知学習 | 福島美和 | 2007/10/25 2008/1/26 | アメリカ合衆国 | 心・脳・教育国際学会参加・資料収集、研究実験・資料収集及び研究打ち合わせ |
| 系統発生 | 伊藤毅 | 2007/10/31 11/13 | 中華人民共和国 | 更新世の洞窟堆積物の化石調査 |

| | | | | |
|------|--------------------------|-------------------------|----------------|--------------------------------|
| 行動発現 | 平井大地 | 2007/11/2～11/9 | アメリカ合衆国 | 第37回北米神経科学大会参加・発表・資料収集・研究打ち合わせ |
| 器官調節 | 檜垣小百合 | 2007/11/3～11/9 | アメリカ合衆国 | 第37回北米神経科学大会参加・発表・資料収集 |
| 認知学習 | 木場礼子 | 2007/11/3～11/9 | アメリカ合衆国 | 第37回北米神経科学大会参加・発表・資料収集 |
| 認知学習 | 三浦優生 | 2007/12/10 2008/3/3 | ドイツ連邦共和国 | 研究交流・研究連絡及び資料収集 |
| 思考言語 | Martin Christopher | 2007/12/14 2008/1/6 | フランス共和国・ギニア共和国 | 資料収集・野生チンパンジーの生態調査 |
| 野外施設 | 張鵬 | 2007/12/22 2008/1/20 | 中華人民共和国 | キンシコウの社会生態に関する野外調査・研究連絡 |
| 形態進化 | 小薮大輔 | 2008/1/4～1/11 | ベトナム社会主義共和国 | 野外調査・研究打ち合わせ |
| 思考言語 | 兼子峰明 | 2008/2/3～3/1 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態観察・チンパンジー保護施設見学 |
| 系統発生 | Zin Maung Maung Thein | 2008/2/5～3/24 | ミャンマー連邦 | 発掘調査・哺乳類化石の解析及び観察 |
| 系統発生 | 伊藤毅 | 2008/2/5～2/26 | ミャンマー連邦 | 発掘調査・哺乳類化石の解析及び観察 |
| 認知学習 | 木場礼子 | 2008/2/15～2/27 | インドネシア共和国 | 野外調査・温泉ザルの予察 |
| 認知学習 | 親川千紗子 | 2008/2/22～3/14 | インドネシア共和国 | アジルテナガザルの行動観察 |

(3) 教務補佐員

| 所属 | 氏名 | 期間 | 目的国 | 目的 |
|------|-------|------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 生態機構 | 笠原聡 | 2007/4/24～8/16 | ウガンダ共和国 | チンパンジーの野外調査・研究連絡 |
| 系統発生 | 荻野慎太郎 | 2007/7/3～7/14 | ポーランド共和国・ドイツ連邦共和国 | 食肉類化石の比較検討 |
| センター | 村井勅裕 | 2007/7/29～9/1 | インドネシア共和国 | 研究調査・資料収集 |
| 思考言語 | 大橋岳 | 2007/8/4～9/16 | ギニア共和国 | 植林活動・野生チンパンジーの調査 |
| 思考言語 | 大平知美 | 2007/8/5～8/17 | オーストリア共和国・ドイツ連邦共和国 | 国際エンリッチメント会議出席・施設見学 |
| センター | 村井勅裕 | 2007/9/12～10/25 | 中華人民共和国 | 研究連絡・資料収集・野外調査 |
| 系統発生 | 荻野慎太郎 | 2007/9/13～9/25 | ロシア連邦 | 化石標本の観察・同定・計測 |
| 形態進化 | 山本亜由美 | 2007/9/15～9/26 | 台湾 | 野生タイワンザルの観察及び骨格標本の計測 |
| 生態機構 | 早川祥子 | 2007/10/5～10/21 | アメリカ合衆国 | テナガザルの行動調査・資料収集 |
| 系統発生 | 荻野慎太郎 | 2007/10/18～10/22 | アメリカ合衆国 | 国際古脊椎動物学会参加・発表及び資料収集 |
| 生態機構 | 早川祥子 | 2007/11/1 2008/1/10 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態調査・研究連絡 |
| 生態機構 | 早川祥子 | 2008/2/3～3/26 | ウガンダ共和国 | 野生チンパンジーの生態調査・研究連絡 |
| 思考言語 | 大橋岳 | 2008/2/9～3/12 | フランス共和国・ギニア共和国 | 資料収集・植林活動・野生チンパンジー調査・研究打ち合わせ |
| 形態進化 | 山本亜由美 | 2008/2/24～3/9 | シンガポール共和国・ベトナム社会主義共和国 | 現生マカカ属の骨格標本の観察及び計測 |

(4) 非常勤研究員

| 所属 | 氏名 | 期間 | 目的国 | 目的 |
|------|------|---------------|--------|-----------------|
| センター | 竹元博幸 | 2007/8/4～9/16 | ギニア共和国 | チンパンジー生態調査・研究連絡 |
| 形態進化 | 清水大輔 | 2007/9/3～9/30 | ケニア共和国 | 霊長類歯牙化石の微小咬耗分析 |
| センター | 竹元博幸 | 2008/1/2～2/15 | ギニア共和国 | チンパンジー生態調査・研究連絡 |

(5) 学振特別研究員(PD)

| 所属 | 氏名 | 期間 | 目的国 | 目的 |
|------|-------|-----------------|--------------|----------------------------|
| 思考言語 | 伊村知子 | 2007/5/7～5/18 | アメリカ合衆国 | 共同研究打ち合わせ・国際視覚学会出席・発表 |
| 思考言語 | 伊村知子 | 2007/6/21～6/29 | 英国 | 幼児知覚研究会参加・資料収集 |
| 思考言語 | 伊村知子 | 2007/8/25～9/2 | イタリア共和国 | ヨーロッパ視覚学会参加・発表・資料収集 |
| 思考言語 | 伊村知子 | 2007/11/29～12/7 | アメリカ合衆国 | 共同研究打ち合わせ |
| 思考言語 | 打越万喜子 | 2008/1/3～1/13 | バングラデシュ人民共和国 | フーロックテナガザルの保全に関する会議参加・資料収集 |

(6) 外国人共同研究者

| 所属 | 氏名 | 期間 | 目的国 | 目的 |
|------|----------------|---------------|-------------------|---------------------|
| 生態機構 | GARCIA, Cecile | 2007/9/2～9/20 | チェコ共和国・フランス共和国・英国 | 研究連絡・国際会議参加・発表・資料収集 |

9. 非常勤講師

(霊) 酒井聡樹 (東北大学大学院生命科学研究科准教授)

「これから論文を書く若者のために」

2007年11月26日～11月27日

(理) 入来篤史 ((独)理化学研究所象徴概念発達研究チーム研究リーダー)

「道具を使うヒトの知性の起源 ～未来を創る手と脳のしくみ～」

2007年12月14日

(理) 小川園子 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)

「行動神経内分泌研究の最前線:エストロゲン関連分子による情動・社会行動の制御」

2008年1月21日～1月22日

(理) 山岸俊男 (北海道大学大学院文学研究科教授)

「社会心理学」

2008年2月4日～2月5日

(理): 理学研究科 梓 (霊): 霊長類研究所 梓

10. リサーチ・アシスタント(RA)

佐藤 義明: 2007年5月1日～2008年3月31日

三浦 優生: 2007年5月1日～2008年3月31日

神田 恵: 2007年5月1日～2008年3月31日

親川千紗子: 2007年5月1日～2008年3月31日

半田 高史: 2007年5月1日～2008年3月31日

鈴木真理子: 2007年5月1日～2008年3月31日

檜垣小百合: 2007年5月1日～2008年3月31日

グローバル COE

石川 直樹: 2007年11月1日～2008年3月31日

平井 大地: 2007年11月1日～2008年3月31日

川合 静: 2007年11月1日～2008年3月31日

酒井 朋子: 2007年11月1日～2008年3月31日

11. ティーチング・アシスタント(TA)

霊長類学系科目に係るもの

小倉 匡俊: 2007年6月1日～2008年2月29日

酒井 朋子: 2007年6月1日～2008年2月29日

張 鵬: 2007年6月1日～2008年2月29日

橋本 亜井: 2007年6月1日～2008年2月29日

全学共通科目に係るもの

澤田 晶子: 2007年6月1日～2007年7月31日

伊藤 祐康: 2007年6月1日～2007年7月31日

兼子 峰明: 2007年8月1日～2007年8月31日

瀬占 雅史: 2007年8月1日～2007年8月31日

12. 年間スケジュール

2007年

4月4日 新入生オリエンテーション

4月5日-6日 ライセンス講習会

4月19日 新入所員歓迎会

4月27日 RRS 完成記念式典

5月19日-20日 共同利用研究会「第8回ニホンザル研究セミナー」

6月1日 創立40周年記念式典

6月2日 ジュニア講座・京都公開講座

6月3日 東京シンポジウム

6月5-8日 引越(岐阜大)

6月18日 本学創立記念日

6月19-21日 引越(オリムパス)

7月2-4日 引越(名経大)

7月12日 引越(事務室)

7月17-20日 引越(岐阜大)

8月1-3日 全学共通科目「霊長類学の現在」

8月7-8日 大学院修士課程入試

8月23-24日 犬山公開講座

8月31日-9月1日 共同利用研究会「メタX -社会的認知における階層的処理過程の比較認知発達-」

9月6-7日 共同利用研究会「霊長類ゲノムと脳・感覚研究の最前線」

9月15日 東京公開講座

10月12日 サル慰霊祭

11月11日 ジェーン・グドール講演会「地球社会の調和ある共存に向けて -野生動物研究センターへの展望-」

11月12日 ジェーン・グドール講演会名誉博士号授与式

11月30日 運営委員会

12月11日 博士論文発表会

12月20日 防災訓練

2008年

1月7日 新年挨拶会

1月8日 博士論文発表会

1月28日 修士論文発表会

2月15-16日 共同利用研究会「マカクの進化と多様性に関する研究の現状と課題」

3月3日 運営委員会

3月3-7日 引越(岐阜大)

3月7-8日 共同利用研究会「第37回ホミニゼーション研究会:霊長類学の未来をさぐる」

3月10-12日 引越(オリムパス)

3月13-14日 引越(名経大)

3月15-18日 引越(岐阜大)